

# 世界一過酷な 子育てをする皇帝



©Christopher.Michel

## 身体の大きさはペンギンの中で最大級

短い足でヨチヨチ歩く姿がかわいらしいペンギン。その種類は18種類あり、なかでも身体がいちばん大きいのがコウテイペンギンで、最大130cmまで成長します。最も南に分布するペンギンとしても知られています。

ヨチヨチ歩きといえば、旭山動物園（北海道旭川市）の「ペンギンの散歩」が有名です。このイベントで愛らしい散歩姿を見せてくれているのは、キングペンギンとジェンツーペンギンです。コウテイペンギンとキングペンギンは見た目がよく似ていますが、キングペンギンは90cmくらいの大きさなので、並んでいれば一見して見分けがつかず。模様にも若干違いがあり、首元の黄色い模様がお腹側とつながっているのがコウテイペンギン、つながっていないのがキングペンギンという見分け方ができます。キングペンギンは日本国内の10を超える動物園や水族館で会えますが、コウテイペンギンに会えるのは、アドベンチャーワールド（和歌山県）と名古屋水族館（愛知県）の2か所だけ。貴重な感じがしますね。

## いざとなったら父親が授乳する

野生のコウテイペンギンは、マイナス数十度の氷原の中で繁殖するので「世界でもっとも過酷な子育てをする鳥」ともいわれています。

雌は、南極では真冬にあたる5月下旬から6月に卵を1個産みます。産んだ卵は雄に預け、エサを取るために出かけるので、雄は約2ヶ月間、足の上に卵をのせて温め続けます。この頃、南極の気温はマイナス60度まで下がり、風速毎秒30mを超すブリザードに何度も襲われます。にもかかわらず、卵は32～38度に保たれます。父親ペンギンの保温力の高さに驚かされますね。しかも父親ペンギンは、絶食状態です。産卵から抱卵の3～4ヶ月間、何も食わず、厚い皮下脂肪だけで自身の生命を保っているのです。

卵が孵化するのは8月中旬。エサを取りに行っていた雌も戻ってきます。ヒナが若鳥になるまで6ヶ月間かかりますが、その間親が餌を与え続けます。さらに驚くのは、卵が孵化するまでに雌が帰ってこなかった場合、雄がミルクをあげるのです。ほんのわずかですが、体内の脂肪からミルク状の液体（ペンギンミルク）を作り出し、足の上で暖めながらヒナに与えるのです。父親が授乳をするのはコウテイペンギン以外にはないのではないでしょうか。夫婦命がけで子どもを育てるコウテイペンギンに、家族の絆の強さを感じます。

## コウテイペンギン ペンギン目ペンギン科コウテイペンギン属 *Aptenodytes forsteri*

エンペラーペンギンとも呼ばれる。南極大陸周辺に分布。潜水能力が高く、水深500m以上の深さに20分以上潜ってられる。体長は100～130cm、体重は20～45kg。成鳥は連帯感が強く、抱卵中は巨大なコロニーを作る。